

富岡市後援の社会福祉法人「上州水土舎」(金谷透代表)が求めている、重度障害者を対象とする更生施設の新設について、住民同意書が不要だったことがわかり、中断していた計画が再び動き始めた。今後、水土舎は地域との関係改善を図りながら、来年4月の開設を目指す。甘楽富岡地域で、同様の更生施設は現在、1か所のみ。金谷代表は、「甘楽富岡地域で(欠員が出るのを)待機している障害者に、ようやく朗報を伝えられる」と話している。

水土舎は昨年、更生施設新設へ向けた協議計画書を県に提出した。同12月には署名活動を展開し、5000人以上を集めた。今年2月の県議会を経て、7月には、補助金交付の内示が国から県に知らされていた。

富岡

## 障害者更生施設、建設へ向け再始動 水土舎「住民との関係改善図りたい」

しかし、関東信越厚生局から書類に不備があるとの指示を受けた県が6月、水土舎に住民同意書の提出を求めている。水土舎は、住民へ働きかけたが、なかなか同意を得られず、計画が中断していた。

9月29日、「住民同意書は必須ではない」と厚生労働省から連絡を受けた県は2日、水土舎にその旨を伝えた。県は「関係改善に向けた調整を進め、補助金交付の最終的な判断をしたい」と話している。



既存の施設に隣接する、建設予定地に立つ金谷代表